

専門分野 I

基礎看護概論 I

基礎看護概論 II

共通看護技術論 I

共通看護技術論 II

日常生活援助技術論 I

日常生活援助技術論 II

日常生活援助技術論 III

フィジカルアセスメント I

フィジカルアセスメント II

診療援助技術論 I

診療援助技術論 II

臨床看護総論

教 科 目 名	基礎看護概論 I	単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 前期

キーワード	看護学 看護の理念(本質) 看護の概念 (人間・環境・健康・看護・学習) 看護理論 看護の対象 職業としての看護(歴史)
学習目標 (授業の位置づけ)	<p>基礎看護概論は看護学の礎であり、実際的な看護技術を展開する上で根幹となるものであるため、各看護技術論、看護援助論に先行して授業を展開する。</p> <p>目的：看護の歴史の変遷を通して、看護の主要概念・理論を捉え、看護の目的・位置づけを理解する。</p> <p>目標：1. 看護の基盤となる概念について理解できる。 2. 職業として発展してきた看護の歴史の変遷を理解できる。 3. 看護の対象について理解できる。 4. 看護と理論の関係性やその必要性について理解できる。</p>
授業の形式	講義 グループワーク
成績評価の方法	筆記試験、レポート、授業中・グループワークの態度も参考にする。
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院 フローレンス・ナイチンゲール著 「看護覚え書」 現代社</p> <p>(参考書)</p> <p>1. 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューベルヒロカワ 2. 看護のための人間発達学 医学書院 3. 臨床看護総論 医学書院 4. 超入門事例で学ぶ看護理論 学研 5. ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる 東西社</p>
メッセージ	<p>基礎看護概論 I は、看護学の共通事項を学ぶ最も基本基盤となる科目です。</p> <p>「看護とは何か」、看護の原点(誕生)から職業として発展してきた現代看護までの歴史について学び、この先、様々な領域の看護学を学び続けるための根源力となるよう学んでほしいと思います。</p> <p>授業は、教科書と資料等を中心に進めます。看護を探究してきた先人に習い、「看護とは何か」という間に真正面から取り組んでみましょう。本授業と平行して展開される基礎看護技術論、看護援助論の各授業との連動のなかで、看護へ知識や自己の看護観を更に育みましょう。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	看護の基本となる概念	1. 授業の位置づけ 2. 看護とは 1) 日常にある看護 2) 看護学とは
2 3	看護の歴史の変遷	1. 看護史を学ぶ意義と姿勢 2. 看護の歴史 1) 職業としての看護の始まり 2) 職業としての看護の始まりから現代までの看護
4 5 (0.5)	職業としての看護 看護の提供者	1. 専門職とは 2. 看護の養成制度と就業状況 3. 看護職者の教育とキャリア開発
6 7	看護実践に必要な主な諸 概念 看護の目的、役割	1. 看護の概念 2. 看護の諸定義
8	看護の対象 人間と健康 人間と環境(生活)	3. 人間の理解 1) 人間の構造と機能、心身の関連、心の動き 2) 生涯発達しつづける存在としての人間 3) 人間の「暮らし」の理解
9 10		4. 人間と健康の理解 1) 健康のとらえ方 2) 健康と生活への影響要因 5. 人間と健康と環境の理解 1) 内部環境・外部環境 2) 「暮らし」としての環境
11 12	国民の健康・生活の全体 像	1. 国民全体の健康に関する指標 2. ライフサイクルと健康・生活 3. 現代の日本人の健康と生活
13 14 15	看護実践のための理論	1. 看護理論の発達背景 2. 看護の概念と理論 3. 看護理論の理解 4. 看護理論の看護過程展開への活用
16	学科試験	

教科目名	基礎看護概論Ⅱ	単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	専任教員	講義学年・学期	1年次 後期

キーワード	看護の機能 保健医療システム	看護活動の場(展開) 倫理	継続看護 看護倫理
学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：看護の基本原則を踏まえ、看護者としての役割・機能、職業倫理について理解する。</p> <p>目標：1. 看護活動展開の場と看護の役割について理解できる。 2. 看護サービス管理システムについて理解できる。 3. 看護サービス提供のしくみと看護の機能と業務について理解できる。 4. 医療安全と医療の質保障について理解できる。 5. 看護倫理について基本的な知識を理解できる。</p>		
授業の形式	講義 グループワーク		
成績評価の方法	筆記試験 学習参加状況も参考にする。		
教科書・参考書	<p>(教科書)</p> <p>1. 系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 医学書院 2. わかりやすい看護者の倫理綱領 照林社</p> <p>(参考書)</p> <p>1. 伊部 俊子 著 医療倫理学のABC ぴあ出版 2. 医療人権を考える会 ベッドサイドの看護倫理 事例30 日本看護協会出版会 3. バージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会</p>		
メッセージ	<p>既習の基礎看護概論Ⅰと同様に、看護学の共通事項を学ぶ基礎看護学の基本、土台となる教科です。看護の本質は何かを学び、自分が将来実現したい看護についての夢をもち、それを実現する基盤を築き、自らの看護観を構築するための礎になるよう学んでほしいと思います。</p> <p>そのためには自分のありのままを客観視でき、看護師としての自分のありようを職業倫理の視点から考えてみましょう。</p>		

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1 2	看護サービス提供の場	1. サービスとしての看護 2. 看護サービス提供の場 1) 医療提供施設 2) 医療提供施設以外の看護の場
3 4 5	看護サービス提供の しくみと看護の機能と業務 医療安全と医療の質保障	1. 医療政策 2. 看護をめぐる制度と政策 1) 看護制度 2) 看護政策 3) 看護サービスと経済 4) 看護の人員配置基準、看護サービスの評価 3. 看護サービスの管理、看護管理過程 4. 医療安全と医療の質の保障
6 7	看護における倫理	1. 倫理とは 2. 職業としての看護倫理 1) 職業倫理としての看護倫理 3. 医療職としての倫理 1) 患者の権利 2) 看護倫理をめぐる取り組み 4. 看護者の倫理綱領 1) インフォームド・コンセントとアドボカシー 2) 倫理的意思決定と倫理的ジレンマ
8	学科試験	

教 科 目 名	共通看護技術論Ⅰ 【コミュニケーション、安全・安楽】	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	専任教員／非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

キーワード	人間対人間の相互作用 自己理解・他者理解 意図的コミュニケーション 言語的・非言語的コミュニケーション 安全と事故防止 安楽な体位 ボディメカニクス 感染予防 手洗い 無菌操作 ガウンテクニック
学習目標 (授業の位置づけ)	看護の基盤となり、共通的な看護技術であるコミュニケーションと安全・安楽について、早期に位置づけ、以後の専門分野Ⅰでの学習に連動させていく。 目的；看護の基盤となる看護実践に共通する基礎的知識と技術を学ぶ。 目標 1. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解する。 2. 対人関係プロセスとしての看護について理解する。 3. 看護におけるコミュニケーションの特徴を理解する。 4. 看護におけるコミュニケーションスキルを理解する。 5. 看護の基本的要素である安全・安楽の意味を理解する事ができる。 6. 安全・安楽を守る技術の種類と基本的技術の構成要素を理解できる。 7. 安全・安楽を守る技術を習得できる。
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と授業、演習を展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験 *課題や授業(演習)参加態度を評価に含む場合もある。
教科書・参考書	系統看護学講座 専門Ⅰ「基礎看護技術Ⅰ」基礎看護学【2】 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学【3】 医学書院 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディカ
メッセージ	人間は自らのからだを使って、他者とのつながりを求めて生活する存在であり、他者とのつながり無しでは生きられない宿命にあります。その成長発達の中で、さまざまな人との出会いや関わりを通して、より豊かな人間関係を育み、それは、人間としての個人を成熟させていく力となります。この人間関係を育む基盤となるのがコミュニケーションなのです。看護の対象は人間であり、コミュニケーション無しには看護は成立しません。看護におけるコミュニケーションは、対象の存在そのものに敬意を払い、相手を受け入れ、共にある存在として心を通わせる関係を培う重要な手段です。「コミュニケーション」では、人間対人間の関係性の基盤となるコミュニケーションについて理解を深めるとともに、看護におけるコミュニケーションの意義や目的、特徴、さらに意図的なコミュニケーションの具体的な方法について学習します。 また、現在の医療現場における安全管理は、患者の権利の高まりとともに大変重要な要素となっています。その患者のニーズの変化に伴い、看護においても安全や安楽に求められる役割は大きくなってきています。そのことを踏まえて、看護の基本的要素である安全・安楽の意義とその具体的な活用方法を学習します。

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	コミュニケーションの 意義と目的 コミュニケーションの 構成要素と成立過程	1. コミュニケーションとは 2. 医療におけるコミュニケーション 1. コミュニケーション手段 2. 構成要素と成立過程	専任教員
2	関係構築のためのコミ ュニケーションの基本	1. 接近的コミュニケーションの原理 2. 接近的行動と非接近的行動	
3	効果的なコミュニケー ションの実際	1. 傾聴の技術 2. 情報収集の技術 3. 説明の技術 4. アサーティブネス	
4	コミュニケーション障害 への対応	1. コミュニケーションに障害がある人の特徴 2. 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3. コミュニケーションに障害がある人への対応	
5 6	安全確保の技術	1. 看護における安全の意義 2. 安全確保の基礎知識 3. 誤薬防止 4. チューブ類の予定外抜去防止 5. 患者誤認防止 6. 転倒・転落防止 7. 薬剤・放射線暴露の防止	〃
7 8 9	安楽確保の技術	1. 看護における安楽の意義 2. 体位保持(ポジショニング) 3. 基本的活動の援助 1) 基本的活動の基礎知識 2) 体位 4. 身体ケアを通じてもたらされる看護	〃
※ 10 11 12 13	感染防止の技術	1. 感染と感染予防策の基礎知識 2. 感染予防における看護師の責務と役割 3. 感染経路への対策	非常勤講師
14 15 (0.5)	感染防止の技術の 実際	1. 滅菌物の取り扱い 2. 無菌操作	専任教員
15	学科試験		

※10～13 回目は宮崎寛康他講師による講義となる。

教 科 目 名	共通看護技術論 I (感染看護)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間中の 8 時間)
担 当 者	非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期

学習目標 (授業の位置づけ)	<p>目的：看護の基礎となる看護実践に共通する基礎的知識と技術を習得する。 感染から患者、家族を守るとともに医療従事者として自己を守るための知識を習得する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準予防策について理解する。 2. 手指衛生の重要性を理解し、実践方法を習得する。 3. 経路別予防策について理解する。 4. 医療器材の洗浄・消毒・滅菌について理解する。 5. 職業感染予防策（ワクチン接種、血液・体液曝露対策）について理解する。 6. 病原体別感染予防策が理解できる。
授業の形式	1. パワーポイントと資料を用い授業を展開する。
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業出席時間 2. 試験
教科書・参考書	系統看護学講座「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学③ 医学書院
メッセージ	近年、医療において感染対策の重要性は非常に高まっています。背景には、医療制度や患者の感染対策へのニーズ、医療訴訟、輸入感染症の増加等があげられます。今後医療職として勤務するために、感染対策の基本を習得することは必須であり、患者のみならず自己を守ることにつながります。講義の中で正しい手指衛生、標準予防策等々を学習します。

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	標準予防策 手指衛生	標準予防策について基本と看護場面を想定し理解する 手指衛生の方法と実施のタイミングについて看護場面を想定し理解する	非常勤講師
2	洗浄・消毒・滅菌	洗浄・消毒・滅菌の基本を理解する。	〃
3	経路別予防策 病原体別感染予防策	経路別予防策の基本的考え方と病原体別にその対策を当てはめ理解する。	〃
4	職業感染予防策	職業感染予防策の基本とその予防のために医療者として何をすべきか理解する。	〃

教 科 目 名	共通看護技術論Ⅱ 【看護の展開方法、 学習支援の援助技術】	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次・中期～後期

キーワード	問題解決過程 人間関係の発展過程 ヘンダーソンのニード論 看護の教育機能 セルフケアの概念 健康教育 ヘルスプロモーション 学習支援
学習目標 (授業の位置づけ)	<p>看護は実践の科学である。基礎看護学概論や基礎看護技術の学習を踏まえて、看護の展開(実践)に必要な科学的思考の基本を学習する。基礎看護学実習との連動を活かした学習展開とする。</p> <p>目的；問題解決思考を踏まえた看護の展開方法を理解するとともに、人間の成長を促すための看護教育機能と指導技術についての基礎的知識を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における問題解決過程について理解する。 2. 看護過程の一連のプロセスを理解する。 3. ヘンダーソンのニード論による対象理解の方法を学ぶ。 4. 看護における学習支援を理解する。 5. 健康状態の変化に伴う学習支援の特徴を学ぶ。 6. 対象への学習支援の実際を学ぶ。
授業の形式	教科書を中心に授業、課題学習と演習を展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ「基礎看護技術Ⅰ」基礎看護学【2】 医学書院 「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」ヌーヴェルヒロカワ 超入門「事例でまなぶ看護理論」学研</p>
メッセージ	<p>看護の対象は患者(人間)であり、質の良いケアを提供するためには、対象を十分理解することが必要となります。そのためにひとつの道具(ツール)を使って看護を展開すると、系統的なプロセスをたどることが可能となるのです。その道具が看護理論です。看護の道筋は科学的な問題解決思考と看護の対象である患者との相互関係によって成り立ちます。現在の医療の現場では、疾病予防への意識の高まりや、生活習慣病に対する看護の指導・教育的役割が大きく求められています。</p> <p>この科目では、看護のプロセスを展開するための理論の必要性や、ヘンダーソンの考える対象理解の方法についての基礎知識を学習します。また看護過程の実施において重要な手段である健康教育と健康状態の変化に伴う学習支援とその実践方法について学習します。</p>

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師
1	看護の展開方法を学ぶための基礎知識	1. 看護過程とは 2. 看護過程に必要とされる技能 3. 看護過程の構成要素	専任教員
2	看護過程における記録	1. 看護過程における記録の意義 2. 記録の具体的方法	
3	ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程	1. ヘンダーソンのニード論による人間の見方 2. ヘンダーソンの看護実践プロセス	
4		1. アセスメントのステップ 2. 情報収集 3. 情報の分析・解釈のプロセス 4. 情報の分析・解釈の実際	
5			
6			
7			
8		1. 対象の全体像の描写 2. 看護上の問題点の明確化	
9		1. 看護計画の立案の定義 2. 看護計画の立案のプロセスと留意点	
9		1. 実施のプロセス 1. 評価のプロセス	
10	看護における学習支援	1. 看護における学習支援の意義と目的	〃
11	健康に生きることを支える学習支援	1. さまざまな形で行われる学習支援 家庭・学校・職場・地域社会	
12	1. 看護における学習支援の実際 個人・家族・集団 (演習含む)	1. 健康状態の変化に伴う学習支援 外来・入院・退院	
13			
14			
15	(0.5)		
15	学科試験		

教 科 目 名	日常生活援助技術論 I 【環境、活動・休息】	単位数 (時間数)	1 単位 (30時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次・前期

キーワード	人間と環境 健康生活と環境(物的環境、对人的環境、教育・管理的環境) 援助の場(一般病床、療養病床など)の居住環境 環境のアセスメント 病室環境整備 ベッドメイキング 重心と支持基底面 良肢位 日常生活動作(ADL) ボディメカニクス 体位と体位変換 移動 移乗と移送 サーカディアンリズム レム睡眠とノンレム睡眠
学習目標 (授業の位置づけ)	生活者である人間の健康を支援する看護の役割として、環境の調整は基盤となるものであり、活動・休息の援助を実践する上においても環境の理解が大変重要である。生理的欲求のひとつである活動と休息のニーズを満たすためにも、環境との関連を踏まえながら学習できるよう1年前期の同時期の学習展開とする。 目的；日常生活を整える看護実践のための基礎的知識と技術を習得する。 目標 1. 看護における環境の意義を理解する。 2. 療養環境調整の意義と目的を理解する。 3. 健康生活のための環境調整の視点と、援助の場に応じた居住環境について理解する。 4. 療養環境調整のための具体的方法を習得する。 5. 運動と活動の意義とそれらを行う身体のしくみを理解する。 6. 日常生活における運動・活動の援助方法を習得する。 7. 休息と睡眠の意義を理解し、そのアセスメントの視点と援助方法について理解する。
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験 *課題や授業(演習)参加態度を評価に含む場合もある。
教科書・参考書	系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 II」基礎看護学【3】 医学書院 看護がみえる①基礎看護技術 メディックメディカ 解剖生理学「人体の構造と機能1」 医学書院
メッセージ	環境は、看護の主要概念のひとつであり、人間ならびに健康との関連においても双方が分離できない一体、系として捉える必要があります。彼のF. ナイチンゲールも病人の自然治癒力を高めるための手段の一つとして、環境を整えることが看護実践において重要であるという考えを述べています。私たち看護者が環境を整えることは、患者の健康を維持・回復へと導き、またはその人らしく存在する環境を提供することができるという可能性を秘めているのです。また活動することや休息は人間の生理的ニーズのひとつであり、この欲求を充足できるような環境を整えていくことも看護の重要な役割です。 この科目では、基礎看護学概論での人間と環境、環境と健康、健康を目標とした看護という手段、この看護の主要概念の学習を踏まえながら、環境が人間に及ぼす影響について理解を深めながら、その環境調整の必要性と重要性を認識した上で、療養環境調整の技術を習得します。またその知識と連動して、活動と休息へのアプローチの方法についても学習していきます。

回	授 業 主 題	授 業 内 容	講 師	
1	療養生活の環境	1. 環境の概念 2. 看護における環境の意義	専任教員	
2	療養環境とその調整の視点	1. 療養環境調整の意義 2. 病室環境整備の目的 3. 健康生活と居住環境		
3 4	病室環境調整の具体的要素	1. 光環境 2. 空気とにおい環境 3. 音環境 4. 室内気候と寝床環境		
5 6 7 8	快適な寝床の提供 —環境調整の援助技術—	1. 環境のアセスメント 2. 病室の環境整備 3. ベッドメイキングの方法 4. 臥床患者のリネン交換		
9	基本的活動の基礎知識	1. 活動・運動の意義 2. 活動のアセスメント		〃
10	活動・運動の援助	1. 運動機能の維持・回復のための援助 1) 廃用症候群の予防 2) 関節可動域訓練		
11		1. 体位変換 2. 床上移動		
12 13		1. 座位保持・起立動作の援助 2. 車椅子への移動と移送 3. ストレッチャーへの移動と移送 4. 歩行の援助		
14 15 (0.5)	睡眠・休息の援助の基礎知識 睡眠・休息の援助	1. 休息・睡眠の意義 2. 休息・睡眠の生理学的メカニズム 3. 睡眠障害のアセスメント 4. 休息・睡眠の援助		
	学科試験			

教 科 目 名	日常生活援助技術論Ⅱ 【清潔・衣生活】	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	専任教員／非常勤講師	講義学年・学期	1 年次 前期～中期

キーワード	皮膚・粘膜の機能 全身・部分清拭 陰部洗浄 洗髪 手・足浴 口腔ケア 寝衣(病衣)交換
授業の位置づけ	日常生活を整える看護技術として、人間がその人らしく生きるために、援助を必要としている人の生活を整え、その人の持てる力を発揮できる支援を看護の観点から考えながら、その人に適した清潔援助方法を理論と実践を統合して学習する。
学習目標	目的：日常生活（清潔・衣生活）を整える看護実践のための基礎知識と援助方法を習得する。 目標 1. 清潔や衣服の意義と看護の役割を理解する。 2. 清潔ニーズのアセスメントの視点を理解する。 3. 清潔と寝衣交換の援助方法を習得する。
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を主に展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験 *課題や授業(演習)参加態度を評価に含む場合もある。
教科書・参考書	系統看護学講座 専門Ⅰ「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学【3】 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディカ 解剖生理学「人体の構造と機能1」医学書院
メッセージ	日々の生活の中で身体を清潔に保つことは人間の基本的なニーズであるとともに、皮膚・粘膜の機能を良好に保持し、その機能を高めるという生理的な側面や、気持ちがさっぱりとして爽やかな気分がもたらされる精神的側面の効果などがあります。精神的側面の効果は、よりよい対人関係を育むことに繋がり、社会性にも影響しています。よって皮膚の清潔や衣服の選択などは、病気や障害をもつ人にとっては、その目的・意義が大きいといえるでしょう。 また、清潔の援助は対象と看護者が密接に関わることが多い看護技術のひとつであり、その援助を通して信頼関係を育むことに繋がります。この科目では対象にとってよりよい清潔・衣生活の援助の基礎知識と技術を多くの演習を通して学習していきます。

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	身体の清潔を保つための援助の必要性	1. 清潔の意義と目的 2. 皮膚のメカニズム 3. 清潔のアセスメント 4. 清潔援助の方法・効果	専任教員
2		5. 衣生活の意義と目的 6. 衣生活のアセスメント	
3	身体の清潔を保つための基礎知識と援助の実際	1. 寝衣交換 ・和式寝衣 ・寝衣（作務衣型） ・かぶりのパジャマ 2. 寝衣交換（演習）	
4		1. 全身清拭の意義と方法	
5		2. 全身清拭の実際	
6			
7		1. 洗髪の意味と方法	
8		2. 洗髪の実際	
9		1. 陰部洗浄の意義と方法	
10		2. おむつ交換の方法 3. 陰部洗浄・おむつ交換の実際	
11		1. 入浴・シャワー浴の意義と方法	
12		1. 足浴・手浴の意義と方法	
13		2. 手浴の実際 3. 足浴の実際	
14	1. 口腔ケアの意義と方法 2. 口腔ケアの実際	非常勤講師	
15 (0.5)	1. 整容の意義と方法	専任教員	
	学科試験		

教 科 目 名	日常生活援助技術論Ⅲ 【食生活・排泄】	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 前期～中期

キーワード	食事と健康生活 栄養のアセスメント(栄養素と栄養所要量、水分出納バランス) 経口栄養(特別食と一般食)と非経口栄養(経腸栄養と静脈栄養) 消化・吸収と排泄のメカニズム 排泄に関するアセスメント 導尿 浣腸 尿・便器 おむつ,
学習目標 (授業の位置づけ)	人間にとっての食と排泄という行動は、生命を維持するために重要な役割を果たしている。この関連の深い食と排泄について、人体の構造と機能を踏まえた連動性のある授業展開をしていく。 目的; 日常生活(食生活・排泄)を整える看護実践のための基礎的知識と技術を習得する。 目標 1. 食事と排泄の意義を理解する。 2. 食事と排泄に関連する要因を理解する。 3. 健康を維持・回復するための食事ならびに排泄の援助方法について理解する。 4. 食事ならびに排泄援助の基本技術を習得する。
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を主に展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験 * 課題や授業(演習)参加態度を評価に含む場合もある。
教科書・参考書	系統看護学講座 専門Ⅰ「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学【3】 医学書院 「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」ヌーヴェルヒロカワ 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディカ 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディカ 解剖生理学「人体の構造と機能1」 医学書院 栄養学「人体の構造と機能3」 医学書院
メッセージ	生命を維持するために必要な栄養は消化吸収を経て、排泄までのプロセスをたどりますが、この一連の機能によって人間の健康は維持されているといえます。日々の生活の中で、人間の行動のエネルギーとなる食生活の意義は現代社会において、健康の視点からの重要性が高まってきています。この科目では、ただ単に食べるではなく、食が人間に与える影響を健康というキーワードを基に学習し、食事が体内に取り込まれ、必要なものとして使われた後、排泄されるまでの一連のプロセスを既習の学習を基に想起しながら、その具体的な援助方法についてのアセスメントの視点や技術を多くの演習を通して習得します。

回	授業主題	授業内容	講師
1	食事の意義と栄養摂取	1. 食事の意義と目的 2. 食事と健康の関係性	専任教員
2	健康な食生活	1. 食事、栄養とは 2. 食欲と食行動 3. 健康と食生活	
3	食事のメカニズム	1. 食事に関する身体機能 1) 摂食と嚥下 2) 消化・吸収のメカニズム	
4	食事のアセスメント	1. 栄養状態 2. 水分・電解質バランス 3. 食欲 4. 食事動作(嚥下、姿勢、動作)	
5	食事の援助技術	1. 健康障害と食生活	
6		2. 食生活への援助	
7	非経口的栄養摂取の援助	1. 食事摂取の介助 1. 経管栄養法 2. 中心静脈栄養法	
8	排泄の意義とメカニズム	1. 排泄の意義 2. 排泄のメカニズム	//
9	排泄のアセスメント	1. 排尿のアセスメント	
10		2. 排便のアセスメント	
11	排泄の援助技術	1. 尿器・便器、おむつの援助法	
12		2. 導尿	
13		3. 浣腸	
14			
15 (0.5)			
	学科試験		

教 科 目 名	フィジカルアセスメント I	単位数 (時間数)	1 単位 (30時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	1 年次 前期～後期

キーワード	ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント バイタルサイン 身体計測 観察(問診、視診、触診、聴診、打診) 報告 温罨法・冷罨法
学習目標 (授業の位置づけ)	ヘルスアセスメントはあらゆる看護行為の起始点に位置づけられるが、解剖生理学(人体の構造と機能)や、基礎看護学概論ならびに関係する技術論を先行させた後の授業展開とする。 目的; 看護者としてのヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、アセスメントに必要な基礎的知識と技術の実際を学ぶ。 目標 1. ヘルスアセスメントの概念について理解する。 2. フィジカルアセスメントの意義と重要性について理解する。 3. 身体各部の観察方法について理解する。 4. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法を習得する。 5. 温罨法・冷罨法の援助の実際を学ぶ。
授業の形式	教科書を中心に講義、課題学習ならびに演習を主に展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験 * 課題や授業(演習)参加態度を評価に含む場合もある。
教科書・参考書	系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 I」 基礎看護学【2】 医学書院 看護がみえる③ フィジカルアセスメント メディックメディカ 解剖生理学「人体の構造と機能1」 医学書院
メッセージ	人間の健康は様々な要因と、そしてそれらに対する個人の免疫力・適応力によって左右されています。よって、看護の対象が健康であるのか否かを査定するには、個人とその個人を取り巻く環境をも多角的に捉えていく必要があります。このことから個々の健康をサポートする看護活動は、ヘルスアセスメントから始まり、この活動は絶えず行われるべきものであり、最も基本的かつ重要な看護技術であるといえます。対象の健康状態を形態・機能的側面から見極めていくためには、知識や観察力、判断力が必要とされます。 この科目においては、その中でも観察の重要性を意識して、自分の眼でみて(視診)、手で触れて(触診)、時には聴診器を使って呼吸音や心音、腸音を聴いて(聴診)みて、さらに問診を通して必要な情報を確認することによって、対象の身体的・心理的・社会的側面を統合的にアセスメントする方法を学習します。特に生命の兆候とされるバイタルサイン(体温、脈拍、血圧、呼吸、意識状態)の測定方法については、多くの演習を取り入れ、実践で活用できる技術を正確かつ確実に習得することを目標とします。 また、看護実践においてはチームでの情報共有が重要です。この科目では観察を通して得られた情報や判断した内容を報告する意義やその方法についても学習します。

回	授 業 主 題	授 業 内 容
1	ヘルスアセスメントとは	1. ヘルスアセスメントの意義と目的 2. 看護における観察とは 3. セルフケア能力のアセスメント
2 3 4 5 6 7	観察をするために必要な技術	1. フィジカルアセスメントに必要な技術 1) 全身状態、全体印象の把握 2. バイタルサインの観察とアセスメント 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識 3. 観察結果に応じた具体的援助 1) 褥瘡法
8	報告	1. 看護における報告 2. 報告の種類と留意点
9 10 11	バイタルサイン測定の実際	1. 呼吸・脈拍・血圧・体温の測定 2. 観察内容の報告
12	身体計測と全身状態の観察	1. 身長 2. 腹囲 3. 下肢の血圧測定
13 14 15 (0.5)	心理・社会的状態のアセスメント	1. 心理的側面のアセスメント 2. 社会的側面のアセスメント
	学科試験	

教 科 目 名	フィジカルアセスメントⅡ	単位数(時間数)	1 単位・30 時間
担 当 者	専任教員／非常勤講師	講義学年・学期	2 年次・前期

キーワード	観察・身体診察(問診、視診、聴診、触診、打診) 看護判断(優先順位の決定) フィジカルなデーター 人体の構造と機能
学習目標 (授業の位置づけ)	この単元は解剖生理学、病態治療学、共通看護技術論Ⅰ～Ⅱ、日常生活援助技術論Ⅰ～Ⅲ、フィジカルアセスメントⅠをベースとして位置づける科目である。 目的;看護に活用するフィジカルアセスメントの知識を深め、看護実践力の基盤となる判断力を養う。 目標 1. 患者のフィジカルなデーターを看護に活用する意義とその視点について理解する。 2. 健康問題をアセスメントするための問診や身体診察につながるプロセスを理解する。 3. 根拠に基づく身体機能別フィジカルアセスメントの方法を理解し、身体診察を実施できる。 4. 問診、身体診察技術の活用を通し、看護ヘルスアセスメントの視点と方法を理解し、看護実践の見通しを持つことができる。
授業の形式	講義ならびに演習
成績評価の方法	演習の参加態度や課題の状況、出席状況、学科試験によって評価を行う。
教科書・参考書	系統看護学講座「解剖生理学」人体の構造と機能【1】 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディカ 必要時プリント配布
メッセージ	近代医療の変化に伴う患者のニーズの向上により、質の高いケアが現在の看護師には強く求められています。また、医師の指示に応じて動くばかりではなく、看護師自身が患者の状態を捉えて対応する能力が求められています。 この単元では、解剖生理学、病態治療学で学習した知識を活用し、患者の身体状況を観察・判断し、看護判断や看護ケアにいかせる基礎的能力を身につけていきたいと考えています。看護師が患者の身体状況を診るということは「対話能力」も要求されます。見る、聴く、触ることを組み合わせながら患者の話を聞いていく(問診)能力も身につけていきます。

回	授業主題	授 業 内 容	講師
1 2	フィジカル アセスメント総論	1. ヘルスアセスメントの概念 2. フィジカルアセスメントとは 3. フィジカルイグザミネーションとは	専任教員
3 4 5 6 7 8	フィジカル アセスメントの方法	1. 呼吸器系の診察技術 2. 循環器系の診察技術 3. 消化器系の診察技術 4. 脳神経系の診察技術 5. 骨・筋肉・関節の診察技術 6. 感覚器・皮膚・リンパの診察技術	非常勤講師
9 10 11 12 13 14 15 (0.5)	フィジカルアセスメント 演習	1. フィジカルアセスメントの実際 *呼吸器・循環器・消化器系の フィジカルイグザミネーションの実際 2. 事例患者のフィジカルアセスメント *グループに分かれて、課題演習を実施する。 *観察・身体診察の結果をまとめて看護の方向性を導き出す(レポートにまとめる)。 *その結果を最後の授業で、グループ単位で発表し、意見交換を行う。 —演習;事例を用いた身体診断のプロセス— 簡潔な事例(別紙)に基づき、観察する技術の理解 ・ 何が起きているのか、事象の意味を考える ・ 観察する部位はどこか ・ その優先順位はどうか ・ その観察方法(技術)はどうか	専任教員
15	学科試験		

教 科 目 名	診療援助技術論Ⅰ【診察・検査、救急法】	単位数（時間数）	1 単位（15時間）
担 当 者	専任教員・救急救命士	講義学年・学期	2 年次・前期

キーワード	診察(問診/視診/聴診/打診/触診)、生体・検体検査、洗浄法 応急・救命・救急手当、心肺蘇生法(気道確保/人工呼吸/心臓マッサージ/除細動(AED))、止血法、
学習目標 (授業の位置づけ)	健康障害をもつ対象を理解するために診察・検査、救急法における看護の役割を早期に学習し、実習との連動のなかで効果的な学習に繋げる。 目的； 診察・検査、救急法における看護の役割を理解するとともに、看護実践のための基礎的技術を習得する。 目標1. 血液検査、尿検査、便検査、喀痰検査について理解し、それぞれの検査時の看護の実際を学ぶ。 2. 生体情報のモニタリングの意識と看護の役割を理解する。 3. 心電図検査、心電図モニター、SpO ₂ モニター、血管留置カテーテルモニターについて理解し、看護の実際を学ぶ。 4. 診察の介助の目的を理解する。 5. 胃洗浄、膀胱洗浄の方法と実施の留意点を学ぶ。 6. 救急法の基礎知識を理解する。 7. 気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫の方法と留意点を学ぶ。 8. AEDを用いた除細動のしかたを学ぶ 9. 止血法の種類とその方法について学ぶ。
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、試験 *授業参加態度・課題を評価に含む場合もある。
教科書・参考書	系統看護学講座 専門Ⅰ「基礎看護技術Ⅱ」 基礎看護学【3】 医学書院
メッセージ	検体検査や生体情報のモニタリングは、原則として医師の指示に基づいて行われ、得られた情報は、医師による健康状態の判断・疾病の診断・治療方針の選択・治療効果の確認のために利用される。看護師は、適切な方法によって検体採取をし、生体情報のモニタリングをするとともに、異常の早期発見を行い、医師に報告する。 また、診察・検査を受ける患者には、大きな不安や苦痛が生じることが予測されます。医療現場の臨床検査部門では多くの関連職種がチームとして協働していますが、看護師はその患者の最も身近な存在となるため、患者の不安や苦痛を取り除き、診察・検査がスムーズに行えるよう援助し、体への侵襲が大きい検査などでは、もとの生活に復帰できるような援助が求められることとなります。医療現場のなかで有病者に最も近く存在する看護師には、救命救急の処置を必要とする患者に遭遇する機会が他の職種よりも多いと思われ、迅速で適切な対応が求められます。これらの援助においては、患者やその家族への精神的側面への配慮も必要となるため、説明や指導技術も視野に入れた看護の役割を学習していきます。

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1 2	症状・生体機能管理 技術	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2. 検体検査 1) 尿検査 2) 便検査 3) 喀痰検査 3. 生体情報のモニタリング 1) 心電図検査 2) 心電図モニター 3) パルスオキシメーター	専任教員
3 4	診察・検査・処置の 介助技術	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助 1) X線撮影 2) コンピュータ断層撮影(CT) 3) 磁気共鳴画像(MRI) 4) 内視鏡検査 5) 超音波検査 6) 肺機能検査 7) 核医学検査 8) 穿刺 2. 洗浄 1) 胃洗浄 2) 膀胱洗浄	//
5 6 7	救急法	1. 救命救急処置の基礎知識 1) 救急対応の考え方 2) 急変時における初期対応 3) トリアージ 2. 心肺蘇生法 1) 心肺蘇生法の基礎知識 2) 一次救命処置の基礎知識 3) 小児・乳児の心肺蘇生 4) 二次救命処置について 3. 止血法	救急救命士
8	学科試験		

教 科 目 名	診療援助技術論Ⅱ【治療・処置】	単位数（時間数）	1 単位（30時間）
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	2 年次・前期～中期

キーワード	1. 吸入法、吸引法、酸素吸入療法、与薬技術、輸血、採血、包帯法
学習目標 (授業の位置づけ)	<p>診療援助技術論Ⅰとの関連を活かし、現在の看護師に求められる治療・処置に関する技術の習得に向け、2年次早期からの授業展開とし、実習との関連のなかで効果的な学習に繋げる。</p> <p>目的；治療・処置における看護の役割を理解するとともに、看護実践のための基礎的技術を習得する。</p> <p>目標1. 治療・処置における看護の役割を理解する。 2. 呼吸管理に必要な知識と技術を理解する。 3. 薬物療法の意義と目的を理解する。 4. 各種与薬に関する方法と留意点を学ぶ。 5. 注射に関する基本的事項を学ぶ。 6. 各種注射法とその留意点を学ぶ。 7. 輸血の基本的事項を学ぶ。 8. 静脈血採血の方法を学ぶ。 9. 包帯法の基礎知識を理解する。</p>
授業の形式	教科書を中心に、課題学習と講義ならびに演習を主に展開する。
成績評価の方法	<p>授業出席時間、試験、課題レポート</p> <p>* 授業参加態度・課題を評価に含む場合もある。</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ 「基礎看護技術Ⅱ」基礎看護学【3】 医学書院</p> <p>看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディカ</p> <p>看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディカ</p>
メッセージ	<p>与薬は、医師により患者の治療方針が決定され、医師の指示に基づいた薬物が安全かつ確実に投与されることで効果が得られる。与薬にあたっては患者・家族に医師から説明がなされ、同意が得られていることが必要である。看護師は医師に指示された薬剤を正しく与薬する義務がある。</p> <p>また、与薬後は患者を観察し、使用する薬剤の作用・副作用・期待される効果を正しく理解する必要がある。</p> <p>正常に呼吸することを日常生活で意識することは少ない。しかし、何らかの原因で呼吸が正常に行えない状態が生じると、活動範囲が狭められるだけでなく、苦痛・不安が生じ、生命さえも脅かされる。呼吸状態を改善し、整える技術は、そのような状態の患者の安楽、生活の質の改善、生命の維持に直結する技術である。看護師は、呼吸・循環を整える知識と技術身につける必要がある。</p> <p>(静脈血採血は、診療援助技術論Ⅰにて述べている)</p>

回	授業主題	授業内容	講師
1 2 3	与薬の技術	1. 与薬に関する基礎知識 ・薬物療法の理解 ・薬物療法の看護師の役割・患者の援助 2. 経口与薬法 3. 外用薬の皮膚・粘膜適用 ・口腔内与薬法 ・直腸内与薬法 ・皮膚用製剤の塗布、貼付 ・点眼、点入法 ・吸入法	専任教員
4 5	呼吸・循環を整える技術	1. 呼吸の意義とアセスメント ・呼吸の意義としくみ ・呼吸状態のアセスメントと呼吸を整える援助の基本 2. 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 3. 気道分泌物の排出の援助 ・体位ドレナージ、スクイーピング ・一時的吸引 4. 酸素吸入療法 ・酸素吸入療法の概要 ・酸素吸入療法の方法 5. 胸腔ドレナージ 6. 人工呼吸療法	
6	呼吸・循環を整える技術	7. 一時的吸引(演習)	//
7	輸血管理	1. 援助の基礎知識 2. 輸血の実際	//
8 9 10 11 12 13 14	注射による与薬法 静脈血採血	1. 注射法の目的と適応 2. 各注射法に関する基礎知識 ＊技術演習 1) 薬剤の準備 2) 静脈内注射 3) 筋肉内注射 4) 真空管を用いた採血	//
15 (0.5)	包帯法	1. 援助の基礎知識 2. 援助の実際 ・巻軸帯の巻き方 ・三角巾を用いた上肢の固定方法	//
15	学科試験		

教 科 目 名	臨床看護総論	単位数(時間数)	1 単位 (30時間)
担 当 者	専任教員	講義学年・学期	2 年次・前期

キーワード	ヘンダーソンの考えに基づいた対象理解 アセスメント 全体像の描写 看護問題の明確化 看護計画の立案 実施 評価
学習目標 (授業の位置づけ)	看護過程の展開方法について既習の学習を踏まえて事例展開し、その後の臨地 実習を効果的に学習できるよう、2年次前期の授業展開とする。 目的;科学的な問題解決思考に基づいた看護過程の実際を学ぶ。 目標1. 情報の収集とその情報の必要性を理解することができる。 2. 情報を活用したアセスメントをすることができる。 3. アセスメントの結果から対象の全体像を描くことができる。 4. 看護問題を明確にすることができる。 5. 看護問題を解決するための具体的な計画を立案することができる。
授業の形式	事例を基に、講義ならびに課題学習と演習を主に展開する。
成績評価の方法	授業出席時間、授業参加態度、提出物、レポート
教科書・参考書	系統看護学講座 専門 I 「基礎看護技術 I」基礎看護学【2】 医学書院 系統看護学講座 専門 I 「臨床看護総論」 基礎看護学【4】 医学書院 「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践」ヌーヴェルヒロカワ *解剖生理学、病理学等
メッセージ	看護は看護を受ける対象の状況により、様々なかたちに変化する性質を持っています。ヘンダーソンは「看護師の独自の機能は、病人であれ健康人であれ各人が、健康あるいは健康の回復(あるいは平和な死)の一助となるような生活行動を行うのを援助することである」と述べています。 健康問題を抱える対象のよりよい成果を期待するには、対象のその時々状況を観察し、その情報の意味するものを考え、実践する方法を導き出す科学的な意味づけを持った看護のプロセスが必要です。そのために直感や経験だけで実践するのではなく、科学的根拠を踏まえた問題解決思考を習得する必要があります。1年次に人体の構造や機能、疾病などをはじめとした看護に必要な様々な知識を学習しましたね。それらの知識を実際に看護として統合的に活用する学習がこの授業です。 この科目では、その看護過程の展開方法について、既習の学習を基に事例を活用した対象理解と看護実践の具体的な方法を学びます。 また学習した内容を他者に伝える技術を養ってもらい授業展開にします。

回	授業主題	授 業 内 容	講師
1	看護過程とは	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程のプロセス 2. ヘンダーソンの考えに基づいた対象理解と看護過程の展開 3. ヘンダーソンの考えに基づいたアセスメント 	専任教員
2	対象理解の実際	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を用いた対象理解の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報の確認・整理・分類 2) 情報の分析・解釈・判断・推論 	//
3			
4			
5			
6			
7	対象の統合的理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例による対象の統合理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 全体像の描写 <ul style="list-style-type: none"> ・ライフプロセス(発達段階の理解) ・生活構造の捉え ・人間の3側面の捉え ・看護問題の捉え ・看護の方向性 	
8 9		<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護問題の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・優先順位の設定とその根拠 2. 看護目標の設定 	
10 11 12	看護計画の立案	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護計画立案のプロセスと留意点 2. 個別性・具体性のある看護計画の立案 	//
13 14	看護における実施と評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践内容と看護計画との関連性 2. 評価のプロセス <p>*看護計画と実践内容との整合性をみつめ、看護過程の必要性や重要性の理解を深める。</p>	
15	看護過程のまとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程展開の総まとめ 	